

つながるBOOK NEWS

No.1
2019年6月号

◆プラットフォームの名前が決定しました！ その名も「つながるBOOK」

皆様の意見交換の内容等をNEWSレターでお知らせし、情報の蓄積をする意义があります。

令和元年（2019年）6月20日（木）に長野県社会福祉総合センターで、プラットフォーム準備会及び情報交換会を開催しました。8名が参加し、普段どのような活動をしているか、災害時にはどのような動きをするか等の情報交換を行いました。少人数ながら密度の濃い話があり、地域住民に近い活動からライフラインを守る活動といった幅広い話を聞かせていただきました。災害時には様々な団体や立場の方が活躍し、地域を支えていることを改めて実感しました。今後の「つながるBOOK（プラットフォーム）」は、プチ学習会を兼ねる等、情報交換+αを目指していきたいと考えております。災害に関する学習や情報交換、つながり作りに、ぜひお気軽にご参加ください。

◆参加者の取り組み内容や思い 三宅厚己 氏（松川村）

このプラットフォームに参加したのは、つながりを持ちたいという気持ちからです。災害が起きた時に、「〇〇〇やるから手伝ってよ」「一緒にやろうよ」と声をかけてくれる人がいると心強いです。災害ボランティアの経験は中越地震から。避難所の立ち上げ支援をしたときの経験から、太陽光発電を購入。区長という立場もあり、いざというときは地区のみんなを使って欲しいと思っています。



地域・企業・NPO等連携災害支援ネットワーク会議

長野県生活協同組合連合会、長野県NPOセンター、日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会、長野県長寿社会開発センター、長野県共同募金会、日本労働組合総連合会長野県連合会、長野県社会福祉協議会、長野県



（裏面もあります）

この事業は、赤い羽根共同募金の配分金で実施されています

宮澤武男 氏（下諏訪町）

下諏訪町では防災士の資格を取る際に補助金がでます。私自身は防災士の資格をとり平成18年から活動を開始しました。本格的には会社を辞めた2年前から。下諏訪町の防災力UPのため、地区の防災訓練や区の行政をサポートする活動をしています。防災士の資格はとっただけではあまり意味がなく、自分で研修会に参加したり、こういった場に出て、色々な方とつながりを持つことが重要だと思います。

日本労働組合総連合会長野県連合会（連合長野）

長野県内の労働組合には約11万5千人の組合員がいます。連合は、その組合の上部団体という位置づけです。普段は職場にある労働組合の支援をしています。県内の職場に労働組合がある職場が少なくなっているなかで、職場に組合がない方の連絡を受け、サポートや労働相談を行っています。派遣要請で災害支援に行くこともあります。

長野県共同募金会

被災された方の義援金や災害ボランティア活動を支援する支援金の取次事務をしています。普段は、皆様からいただいた共同募金を災害準備金として積み立てています。また、通常の配分金の中にも、地域の防災組織に防災に関する物品購入や支え合いマップ、防災の学習会等の助成をさせてもらっています。

長野県建設業協会

長野県建設業協会は県内15支部があります。災害時には、どこの支部が対応するか、一つの支部だけでは対応できない場合はどの支部から応援にいくか組織化されています。また、ライフラインである緊急一時路線をどう確保するかが一番のミッション。また、県と応急仮設住宅の建設の協定を締結しています。普段から道路の修繕等を行っており、どうすればより早く住民の方の要望に応えられるかを考えています。

長野県生活協同組合連合会

普段はJAや労福協、フードバンクと一緒に活動することがあります。消費者支援ネットワークの事務局を担っています。メインの活動は県内にある生活協同組合の支援をすることです。また、生活協同組合の窓口があります。募金もやっており、注文用紙で募金ができ、口座引き落としなので募金しやすい仕組みがあります。

長野県社会福祉協議会

平時では、災害時住民支え合いマップの推進や災害ボランティアセンター運営支援者（DSAT）の養成研修、災害ボランティアセンターや災害ボランティアの普及・啓発を行っています。災害時には被災地の災害ボランティアセンターの支援や関係団体等への情報提供を行います。